

おおくま

福島県大熊町
議会だより

2024

令和6年
5月1日発行

No.69

題 字：西山 太陽さん（夫沢）



楽しく明るく学んでね（学び舎ゆめの森はじまりの式）

3月
定例会

令和6年度当初予算を可決 ③

重点事業クローズアップ ④

町政を問う 一般質問 ⑧

学び舎ゆめの森卒業式・クラブ紹介 ⑩



スマートフォン
でも見られます

42議案を議決

定例会のあらまし

令和6年第1回定例会は3月5日から15日までの11日間で開催されました。

第1日目に町長から復興へ向けた施政方針が示されました。

そのほか条例制定および改正、工事請負契約変更、財産処分、町道路線の認定、人事案件、令和5年度一般会計補正予算、令和6年度一般会計当初予算など41議案が提出されました。

第2日目は4名が一般質問を行い、復興の課題や新たな町づくりの提案などを取り上げ、町民第一主義の様々な角度から熱く町政をただしました。

第10日目の本会議では条例制定および改正、工事請負契約変更、財産処分、町道路線の認定、人事案件、令和5年度一般会計補正予算など30議案を審議し、全議案を原案通り可決しました。また追加で提出された請願書を全会一致で採択しました。

最終日の本会議では令和6年度一般会計および特別会計当初予算など11議案のほか工事請負契約が追加され全12議案と請願書の意見書提出を併せて審議し、全議案とも原案通り可決し閉会しました。

なお、今回の傍聴者は延べ18人でした。

活気あふれる駅前へ



大野駅前 新たなスタートへ

町長施政方針の要旨

復旧・復興

特定帰還居住区域制度が創設され、昨年9月に下野上1区の一部を先行的に当該区域とし、さらに帰還困難区域を抱える9行政区を追加した。令和6年度より本格的に除染工事に入っていく。

ゼロカーボン

ゼロカーボン補助金について、町民の帰還・移住および町内での事業再開に有効活用いただいている。引き続きニーズを踏まえたメニュー改正や適切な制度運用に努めていく。

住宅・生活支援

帰還者、移住者の住む場所の確保を更に推し進めるため、住宅の取得および修繕、家賃に関する補助等に取り組んでいく。

大川原地区と新たに居住が始まる大野南、原西地区におけるコミュニティ形成や町内外における町民コミュニティ活動の支援に努め、賑わい創出や地域活性化を積極的に推進していく。

下野上地区復興拠点

復興の新しいシンボルとなる大野駅西交流エリア整備では、多くの町民や町外からの来訪者が楽しめる場を創出し、震災前より活気あふれる駅前を目指す。

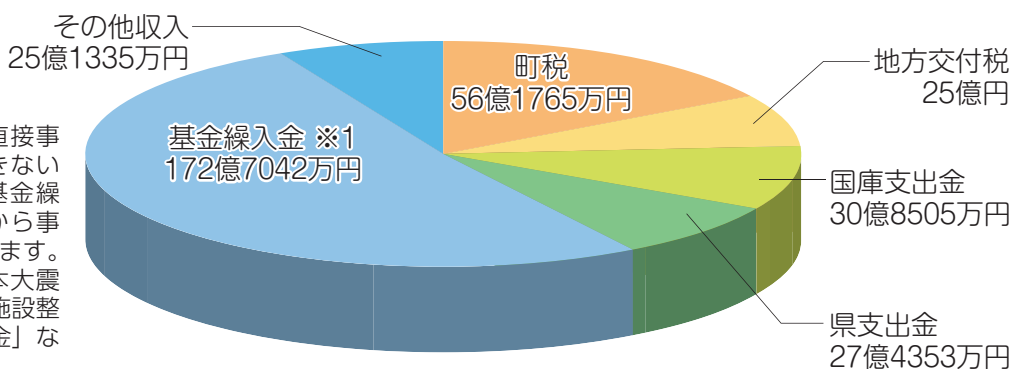
令和6年度当初予算を可決 一般会計総額337億円

令和6年度一般会計当初予算は、復興拠点整備事業、大野駅西口エリア施設整備事業、総合運動公園整備事業などを柱とした大熊町再生にむけた337億3000万円の予算となりました。
主な内訳を報告します。

歳入(収入) 合計：337億3000万円

※1

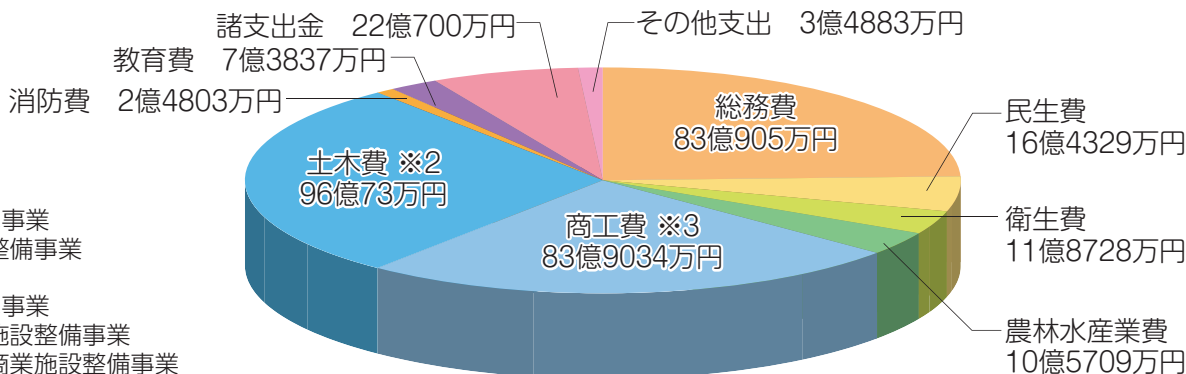
各種基金については、直接事業費に充てることはできないため、一般会計等に「基金繰入金」として計上してから事業費に充てることとなります。主なものとして「東日本大震災復興基金」「中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金基金」などがあります。



歳出(支出) 合計：337億3000万円

※2：主な事業
復興拠点整備事業

※3：主な事業
産業交流施設整備事業
大野駅西商業施設整備事業



特別会計 合計：54億2300万円

会計	予算額	会計	予算額
坂下ダム施設管理	6750万円	住宅団地造成	1万円
国民健康保険	20億2717万円	工業団地造成	16億2607万円
奨学金貸与	1290万円	介護保険・サービス事業	11億2300万円
特定環境保全公共下水道	3億3556万円	後期高齢者医療	4630万円
農業集落排水	1億7201万円	霊園管理	1248万円

(万円未満四捨五入)

令和6年度重点事業をクローズアップ

産業交流施設整備

49億7055万円

駅前のにぎわい創出が期待されます
12月の完成を目指しています



総合運動公園整備

1億6200万円

町民の健康維持と楽しむ場の創出を目指します
測量業務、基本設計や地質調査などを行います

坂下ダム小水力発電設置工事

6659万円

発電した電力は大熊るるん電力に
売電し、地産地消の電源となります



带状疱疹ワクチン接種助成

2306万円

新たに50歳以上の方を対象にワクチン接種費用の一部を助成します

(万円未満四捨五入)

令和6年度の重点事業として産業交流施設整備等が行われます。
新たな町づくりに向かって動き出します。

駅西の開発が進む にぎわい創出へ期待

プレミアム付商品券

町内ガソリンスタンド で利用可能

第1回定例会にて令和6年度一般会計当初予算の審査を行いました。その中から主な質疑内容を報告します。

プレミアム付商品券

問 新たに利用できるところは増えたのか。

答 町内にあるガソリンスタンドで利用可能となる。

問 町民以外でも購入できるのか。

答 住民票がなくても勤務先が町内と分かる証明があれば購入できる。



より便利になるね

マイナンバーカード

問 町民が長期入院などで申請ができない場合の対応を考えているのか。

答 状況を確認し職員が病院等を訪問し受け付ける場合もある。まずは住民税務課に相談してほしい。

税金未納対策

問 新たに予算計上されたがどのような事業なのか。

答 税金未納者に携帯電話にて督促メール等を送信する通信料である。

町民交流イベント

問 町の魅力発信をする2件のイベントの詳細は何か。

答 3月に大熊インキユベーションセンターで開催する学園祭と町内で栽培されたキウイフルーツを使用したスイーツイベントを開催する。

デジタル記録作成委託

問 以前3D定点撮影を行ったが今回の事業目的は何か。

答 平成28年度に町内20カ所の建物を3D記録作成したがVRでの体験しかできなかった。今年度はタブレットやスマートフォンでも

体験可能とするために再編集や撮影をする。

おおくま駅伝

問 昨年は震災後はじめて実施された。今年度以降も毎年実施となるのか。

答 継続して開催していく予定である。

带状疱疹ワクチン接種助成

問 この助成事業の詳細は何か。

答 50歳以上の町民が対象となる。医療機関で接種を受けた場合に生ワクチン1回で5,000円、不活化ワクチン2回で10,000円を助成する。

診療所の人材確保が急務



スタッフ募集してま〜す

人手不足により医療事務従事者を確保できなかったことや薬局までのバス運行の減便などに伴い減額するものです。

診療所運営事業
696万円減額

第1回定例会にて令和5年度一般会計補正予算の審査を行いました。その中から主な内容をお知らせします。

大雨の影響で三ツ森山林道の路肩が崩れました。復旧するため増額するものです。

三ツ森山林道復旧工事
240万円増額



国道6号へのアクセスが便利になります

年度内の用地取得が見込めないことに伴い減額するものです。

東67号線用地購入費
774万円減額

**大熊町監査委員に
國井達夫氏を再任**
全会一致で同意しました。
(住所) いわき市平
(任期) 令和6年4月1日から
4年間

町民税の減免割合

令和5年中の合計所得金額	減免割合
300万円以下	10分の10
300万円を超え400万円以下	10分の7.5
400万円を超え500万円以下	10分の5
500万円を超え750万円以下	10分の2.5

避難生活が継続していることから原
子力災害対策特別措置法に基づき、町
民税減免の他、固定資産税、軽自動車
税および国民健康保険税なども減免措
置されます。

町税の減免条例

第1回定例会にて条例制定および一部改正の審査を行いました。主な内容をお知らせします。

条例制定
人事

マイナンバーカード

国民健康保険証の 一体化を進める

第1回定例会にて令和5年度一般会計補正予算の審査を行いました。
その中から主な質疑内容を報告します。

マイナンバーカード

問 町民のカード取得率は何パーセントか。

答 今年2月末日で取得率は80.2%である。

現在の健康保険証は今年秋に廃止となる。

それ以降はカードと健康保険証が一体化したマイナ保険証に移行する。

カードを保有していない方へは資格確認書を当分の期間申請により交付する。



消防水利

問 案内板が数カ所腐食しているが取り替えないのか。

答 現場で腐食を確認した。早急に交換作業を行うため、案内板購入を進めている。

寄付金

問 今年度のふるさと納税の実績は何件か。

答 ふるさと納税寄付金は162件あった。

返礼品は帰忘郷の甘酒と日本酒、大熊産いちごなどである。

奨学資金貸与

問 貸与条件に父母の所得制限があるが教育の平等から撤廃すべきではないか。

答 現在奨学資金制度検討会にて議論している。

ゼロカーボン補助

問 令和5年度の交付実績は何件か。

答 ZEH3件、省エネルギーフォーム9件、EV車等4件、緑化改善2件、太陽光パネル1件となっているので補助金が帰町促進につながっている。

福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める請願書の審査を行いました。

福島県の人口流失抑制策となる時給1,000円の早期発効を

請願書の主な内容

- ① 政府の「新しい資本主義実現会議」で2030年代半ばまでに最低賃金全国平均1500円を目指す
- ② 諮問時期は可能な限り早期発効を求める

請願者

日本労働組合総連合会 福島県連合会
双葉地区連合会 議長 近野 悟史

住所

福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22番地

紹介議員

島原 健二郎

付託委員会

産業厚生常任委員会

処理経過

全会一致で採択 意見書提出

提出先

内閣総理大臣
厚生労働大臣
福島労働局長

請願審査

木幡ますみ 議員



問 高齢者と若者が助け合う住宅造りを

答 安心して暮らせる環境づくりに取り組む

町政を問う 復興への課題をとらえて

木幡 ある不動産関係者が若者と高齢者が同じアパートに住む事を考えた。

まずは若者に家賃半額で居住してもらう。1階には高齢者の方が居住し、2階には若者が居住する。

若者の居住条件は2つある。

1つは毎朝入居されている高齢者の方々に『おはようございます』と挨拶をする。高齢者の方が慣れるまでしないで行われれば本人の意向を尊重する。

2つ目として月1回は必ずお茶会を開きお話し会をする。若者と高齢者が交流することで自分は一人ではないと安心感を得られる。アパート、賃貸住宅

にはセンサーが取り付けられ何かあったら外に知らせてくれる。入居されてからは出来るだけ自立出来る様にアパートの中で仕事を見つけて分担していく。

町はこれらをモデルとし、大熊町に移住して来た若い方々との接点で、是非この様な型の賃貸住宅を造るべきと考える。町長の考えを伺う。

町長 大熊町において

高齢の1人暮らしが45世帯で、町としても高齢者の孤独・孤立の防止や安全・安心な生活環境づくりは重要な課題となっている。

町内に整備している災害公営住宅および再

生賃貸住宅については法律や条例に基づき家賃査定や入居要件等に一定のルールや制約がある。運用は難しいと考えるが、地域の支えあいや孤立防止に向けた取り組みを進める上で極めて参考になると認識している。

大川原地区の住宅エリアにおいて住民同士の日常的な挨拶や声掛けを促すとともに、定期的に住民が集える機会を設けるなど高齢者や若者も、帰町された方や新たに移住された方も含め安心して暮らせる環境づくりに取り組んで行く。



新たな交流の場として

島原健二郎 議員



問 避難所設営時の物資等の確保の追加備蓄について

答 大型備蓄倉庫の整備を検討する

島原 能登半島地震後に行った内閣府の調査では尿漏れバット、粉ミルク、離乳食、哺乳瓶用消毒剤、小児用おむつ、お尻ふき、間仕切り用品等の要望が多かったと聞いている。そのため当町の防災計画に明記し備蓄すべきである。

また避難所の受付は可能な限りスマホでの受付、検温は自動検温としデジタル化するべきである。

さらに現在避難所として使える施設は大川原地区のみであるため今後整備が予定されている総合運動公園等は避難所機能や備蓄倉庫を備えた施設とすべきと考える。

また避難所受付については、運営スタッフの業務負担軽減と素早い情報伝達を実現できるように、デジタル化に向けたシステムの導入について検討していく。

整備を進めている大野南および原住宅エリアの集会所は、備蓄倉庫も兼ね備えた避難所機能を持たせている。今後整備を予定している施設も、同様の機能を備えた施設となるよう検討していく。

加えて備蓄品の増加や災害時の支援助物資受け入れも対応出来るよう、大型備蓄倉庫の整備についても検討を進めていく。

町長 能登半島地震などにより、備蓄品に対する新たな課題も見えてきている。人口増加

問 戦没者忠魂碑の移設について

答 必要があれば改めて協議を行う

島原 平成30年第2回定例会で忠魂碑を現役場庁舎近くに移設し御霊を弔うべきとの一般質問がされた。まずは現状の調査を実施し、忠魂碑を管理している方々と協議をして移設すべきか判断すると回答されたが現在まで回答も含めてその動きが見えていない。

了解を得た上で移設すべきと考える。

今年度は町の追悼式遺族会の慰霊祭が実施され、その中で遺族会役員より数名の議員に要望があり、忠魂碑を町役場庁舎近隣に移設して一括管理すべきとの意見がでた。

今年度は平成30年第2回定例会の一般質問の後遺族会より慰霊碑等の修復移設建立に関する陳情が町にあり文書で回答している。

回答内容は、震災により倒壊し修復が必要であった熊町幼稚園の忠魂碑は令和4年度に修復を完了していること。また諏訪神社および遍照寺の境内にある忠魂碑はそれぞれの所有であること。さらに旧高田公園にあった記念碑2基は区外に移設は出来ないとの地元の見意があったため、工業団地の奥に移設したことなどである。

今年度は町に対して要望書も提出しているとの事なので早急に調査し、忠魂碑管理者の



静かにたたずんでいます

慰霊碑等は建立当時それぞれの立場により現在の地に建立されたものと認識している。

当面は周辺の草刈り等維持管理に努め、移設については関係者の意見を聞きながら検討していき、必要があれば改めて協議を行っていく。

渡部 友彦 議員



問 中間貯蔵区域内の公共施設の有効活用について

答 町文化財保存計画協議会にて検討していく



またみんなが集まれる場所へ

渡部 去る2月2日から4日までに熊町小学校、幼稚園、児童館への立ち入り、私物持ち出しが震災後初めて行われた。当時の児童や保護者が参加し多くの喜びの声が聞かれた。また、2月11日には伝承の仲間づくりサミットin大熊が町内で開か

れ災害や公害、戦争を伝承していく意義について考える機会となった。今後私たちも東日本大震災、原発事故、中間貯蔵施設の現状などを語り継いでいくことが極めて重要になってくる。そのような取り組みを行っていくうえ

で、公共施設を有効に活用できるのではないか。

特に熊町児童館は築年数も経過しておらず改修すればすべにでも再利用可能と考える。

中間貯蔵施設区域は県内外から様々な方が立ち入りする。休憩所やトイレ、ミーティングルームなど多くの方にとつて公共施設を有効に活用できると考える。

このことについて町長の所見を問う。

町長 今年度に入り、熊町小学校では震災時やその後の余震、経年劣化により施設の一部に損傷があることが判明した。この度当該3施設にて私物持ち出しを実施し延べ400人が訪れた。再開の場、新たに交友を深める機会にもなった。議員質

問の震災と現状を語り継ぐ際に、公共施設を有効利用できるのではないかとこの観点については、震災での経験や教訓を後世へ語り継ぐことが重要であると認識している。

震災と原発事故を風化させないため、貴重な大熊町資料として、震災当時の子どもたちの思いをしっかりと受け止め、後世へ何を残し、語り継いでいくのかを定めることは町独自の課題ととらえている。

具体的な活用の見通しは、協議会において議論を進めていきたいと考えている。

再質問

渡部 協議会等で検討していくとの答弁があった。検証・検討していくにあたって執行部連携だけではなく委員会等を立ち上げて町民大学、有識者、環境省などと連携し取り組むことでより有効な活用策を創出できると考える。町長の所見を問う。

町長 色々な分野の方特に環境省も当然含む。問題は中間貯蔵エリアにあるということ。そうでなければすぐにでも手をつけることが出来るが、中間貯蔵のエリアとこのことなので、環境省にも入ってもらい協議を進めていくと考えている。

武内 正則 議員



問 一戸一灯運動の推進を

答 町として運動を推進していく

武内 町民から夜が暗いから怖い、寂しいとの話を聞く。震災前のように街灯や防犯灯を同じ状況にすることが出来ないのは分かる。しかしそれでは帰還町民、移住定住者が安心安全に暮らすことはできない。そこで提案だが、帰還町民や移住定住者にお願いし一戸一灯運動を推進してはどうか。この運動は夜間に各家庭の門灯や玄関灯を点灯して暗がり無くす運動である。犯罪者は見られることを最も嫌う。一つひとつの明かりは小さなものでも多くの明かりは町全体を明るくする。一戸の明かりが地域の安心感につながると思う。

町長 町は24時間体制の防犯パトロールを実施するとともに、双葉警察署の協力をいただきながら順次防犯灯の増設を進めている。提案のあった一戸一灯運動は全国でも推進されており、自分で犯罪を防ぐことができる有効な手段であると認識している。各家庭の門灯や玄関灯を点灯して住宅街の暗がりなくすことで犯罪を遠ざけることができることから、地域全体で取り組むことが大切である。町としても一戸一灯運動を推進していくので理解を賜りたい。

武内 移住者を受け入れる自治体や企業などが提供しているお試し住宅は、古民家や自然環境が豊かな地域の実験できる施設である。町のお試し住宅の利用状況は一戸で最長7日間、これまでの利用数が約30件、利用者が100人ほど。そしてそのうち約3割が定住している。北海道の池田町では4戸の移住体験住宅を用意し、生活するのに最低限必要な家具や設備、備品が整っており一定期間生活体験できる。町の人口を少しでも増やす一つの方策として、空き家を利用した

問 お試し住宅の増設、利用期間の延長を

答 利用動向を踏まえ検討していく

お試し住宅の増設や長期利用できるようにすべきと思う。

るので、町内の居住人口増加につながる重要な取り組みであると認識している。

町長 当町においては空き家を活用し令和5年2月に戸建のお試し住宅を整備している。令和5年4月から令和6年2月までに利用された29組のうち9組がすでに移住されている。

増設および利用期間の延長については今後の利用動向を踏まえながら、帰還を検討する方に利用いただくことも含め検討していきたい。

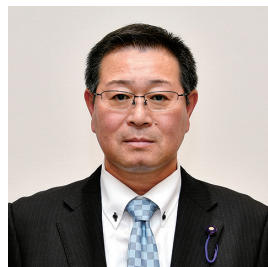


移住の足がかりになっています

議会の構成



副議長 佐藤 照彦



議長 仲野 剛

常任委員会

各委員会が所管する事務や
請願・陳情等の審査を行います。

総務文教常任委員会

委員会の所管

総務課、企画調整課
住民税務課、生活支
援課、出納室、教育
総務課、生涯学習課
の所管に関する事務
および他の常任委員
会の所管に属しない
事務

産業厚生常任委員会

委員会の所管

ゼロカーボン推進課
福祉課、健康保険課
環境対策課、農業振
興課、復興事業課、
農業委員会の所管に
関する事務

広報公聴常任委員会

- | | | | |
|------|-------|----|-------|
| 委員長 | 渡辺 誠 | 委員 | 阿部 光國 |
| 副委員長 | 島原健二郎 | 委員 | 廣嶋 公治 |
| 委員 | 渡部 友彦 | | |
| 委員 | 石井 和弘 | | |
| 委員 | 武内 正則 | | |

- | | | | |
|------|-------|------|-------|
| 委員長 | 島原健二郎 | 副委員長 | 石井 和弘 |
| 副委員長 | 渡辺 誠 | 委員 | 木幡ますみ |
| 委員 | 渡部 友彦 | 委員 | 阿部 光國 |
| 委員 | 廣嶋 公治 | 委員 | 吉岡健太郎 |
| 委員 | 千葉 幸生 | 委員 | 佐藤 照彦 |
| | | 委員長 | 武内 正則 |

議会運営委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 阿部 光國 |
| 副委員長 | 渡辺 誠 |
| 委員 | 武内 正則 |
| 委員 | 島原健二郎 |
| 委員 | 佐藤 照彦 |

監査委員

- 石井 和弘

都市計画審議会

- 武内 正則 木幡ますみ
島原健二郎 阿部 光國

双葉地方広域市町村圏組合議会

- 総務 仲野 剛
保健衛生 千葉 幸生
消防厚生 佐藤 照彦

双葉地方水道企業団議会

- 石井 和弘 武内 正則

特別調査委員会設置

大熊町議会は3月定例議会最終日の15日、議員の報酬と費用弁償の在り方を検討するため調査特別委員会を設置しました。

委員会の名称は大熊町議会議員の報酬および費用弁償等に関する調査特別委員会。委員の定数は5名とし、設置期間は目的の調査が終了するまでとしました。

発委は全会一致で同意され、議長より委員5名が選任されました。委員会構成は次の通りです。

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 渡辺 誠 |
| 副委員長 | 石井 和弘 |
| 委員 | 吉岡健太郎 |
| 委員 | 阿部 光國 |
| 委員 | 渡部 友彦 |

スポーツクラブ 再結成を目指せ



タスキに思いをのせて

1月26日委員会を開催し、所管事務調査を行いました。
主な内容を報告します。

社会教育

町の社会教育の目標として地域・家庭の教育力の向上、スポーツ推進による健康寿命の延伸等の事業に取り組んでいくこと、課題として大熊スポーツク

ラブの再開、総合運動公園整備に向けての住民ニーズ把握等があるとの説明がありました。委員からは、かつてあったスポーツクラブを再結成すべきであるとの意見がありました。

消防団の在り方を 検討すべき

2月2日委員会を開催し、所管事務調査を行いました。
主な内容を報告します。

消防団員

現在消防団には団員65人が所属している。主な活動としては、毎月第3土曜日に設備点検や訓練などを行っている。

その他として、検閲式の開催や災害時の対応を行っているとの説明がありました。

委員からは、町として消防団を存続させていくべきなのか解散し別の方法を考えていくのか、将来的なビジョンが見えない。団員の平均年齢も考慮しながら消防団の在り方等をしっかり検討すべきとの意見がありました。

生活循環バス

バス利用者数については、昨年度の利用者数に比べ増加傾向である。

次年度のバス運行についても、継続して利用状況や他の公共交通機関、常磐線の運行時間などを考慮し、利便性向上を検討していくとの説明がありました。

委員からは、大野駅西交流エリアが供用開始した場合は、現在のバス運行時間では足りなくなる。デマンド交通も含め大野駅西交流エリア供用開始までしっかり検討すべきとの意見がありました。

県外最終処分から 逆算した工程を示せ

3月15日、全員協議会にて環境省より令和6年度の間貯蔵施設事業の方針について説明がありました。

説明要旨と主な質疑について報告します。

説明要旨

県内で発生した除去

土壌は中間貯蔵開始後30年以内に県外で最終処分を完了するため必要な措置を講ずることにしており、県外処分量を低減するため減容再生利用等に取り組んでいます。

2024年度を戦略目標として最終処分場の必要面積や構造について実現可能ないくつかの選択肢を提示することとしています。そのうえで2025年度以降に最終処分場に係る調査検討、調整を進めていきます。

また全国的な理解醸成に向け大学などの講義による次世代向けや現地見学会、WE

Bメディアを活用した情報発信など展開しているところです。

主な質疑

問 最終処分の期限が決まっている中で、そこから逆算された工程表を示してもらえないか。

答 あと21年ということとは重々承知している。現時点では工程という形で示すことはできない状況ではあるが、有識者の検討も伺いながら今後の進め方を示していければと考えている。

ヒューマンエラーを 繰り返さない対策を

2月29日、全員協議会にて東京電力より高温焼却炉建屋からの放射性物質を含む水の漏洩に係る原因と対策について説明がありました。

説明要旨と主な質疑について報告します。

説明要旨

2月7日、福島第一原子力発電所の高温焼却炉建屋から放射性物質を含む水を漏洩させるトラブルを起こしてしまいました。信頼を損ねる事象を起こし、誠に申し訳ございません。起こしてはいけないことを起こし、大変重く受け止めています。

問題点として適切な手順書になっていなかったこと、現場作業時における弁の開状態の見落としが原因。管理面、組織面、協力企業への対応、設備面において対策を講じます。

建屋の外で漏れた水が土壌に浸透したため拡大防止の対策として

土壌を回収しました。今後は再発させないようしっかりと取り組んでまいります。

主な質疑

問 これまでもヒューマンエラーが起きないようになると言っている。しかし繰り返されている。しっかりと対策を取るべきだ。

答 技術の進歩を使いながらソフト面、ハード面ですっかり対策を検討していきたい。ヒューマンエラーについても起こす確率を極限までゼロに近づけるよう何が一番有効なのかしっかりと検討してまいります。

ふたばワールド 広野町で開催



昨年は大熊町で盛大に開催されました

令和6年第1回双葉地方広域市町村圏組合議会定例会が開催されました。8議案を審議し原案通り可決しました。新年度予算では84億2890万円と定め、その中から主な予算内容を報告します。

ふたばワールド

5940万円

双葉郡各町村民の交流の場を創出し、ふるさとふたばの絆をつなぎ、復興に向けた意識の高揚を図るイベントを開催します。今年も広野町で開催されます。

郡立診療所管理運営委託

1億4697万円

勿来、好間に設置している郡立診療所の運営費です。一般社団法人双葉郡医師会へ委託します。

斎場費

2537万円

双葉町に設置している斎場「聖香苑」の施設運転管理委託費です。

南部衛生センター焼却施設整備

54億9329万円

檜葉町に設置している焼却施設を新たに整備する事業費です。令和6年度末に完成予定です。

消防費

1億1806万円

水槽付きポンプ消防車、高規格救急車、その他消防備品を更新する費用です。

令和6年第1回双葉地方水道企業団議会定例会が開催され、6議案を審議し全議案原案通り可決しました。主な内容をお知らせします。

県道広野小高線（熊川地区）道路改良工事に伴う配水管移設工事

1億120万円

野上増圧ポンプ場更新

県道広野小高線道路改良工事に伴い配水管移設が必要となるため、道路改良工事に合わせて配水管を移設する工事です。野上地区に生活用水を通水するため増圧ポンプや電源盤等の設備を更新する工事です。



生活インフラを守ろう

夢に向かって羽ばたきました

「学び舎ゆめの森 一期生卒業」

去る3月13日、澄み渡る青空の下学び舎ゆめの森で初めての卒業式が行われました。常に最高学年として走り続けてきた石井埜乃佳さん、齋藤羽菜さんの二人ですが、この日だけは少し緊張気味な様子で式に臨んでました。

卒業式終盤、二人一緒での答辞が始まります。最高学年としての不安や苦労がありました。常にお互いを信じ助け合いながら乗り越えてきたこと、同じゆめの森で過ごした在校生への感謝や先生方、両親への感謝の言葉が述べられました。

最後に皆さんへの感謝と思いを込めて「旅立ちの日」を二人で熱唱し、自分の信じた道を力強く進んでいくこと、ゆめの森発展を願い答辞を締めくくりました。



ニコリ巣立っていきます

多くの果実と笑顔が実るように

おおくまキウイ再生クラブ

私たちは大熊町の名産であったキウイフルーツを再生させることを通して、様々な方の想いをつなぎ、出会いを作り出し、大熊町を魅力溢れる地域にしていくことを目指して活動しています。

2020年には大川原の畑に18本、2023年には下野上の畑に約50本の苗木を植え、定期的に色々な方に集まっていたきながら楽しく圃場での作業を行っています。

多くの方に支えられながら、4年目となる昨年はようやく50キロほどのキウイを収穫することができました。今年は圃場により多くの果実と笑顔が実るように引き続き頑張っています。

代表者 栗城 英雄



キウイ再生クラブ第2圃場（下野上）での植樹祭 2023年4月



- 第一圃場：大熊町大川原西平
- 第二圃場：大熊町下野上清水

